

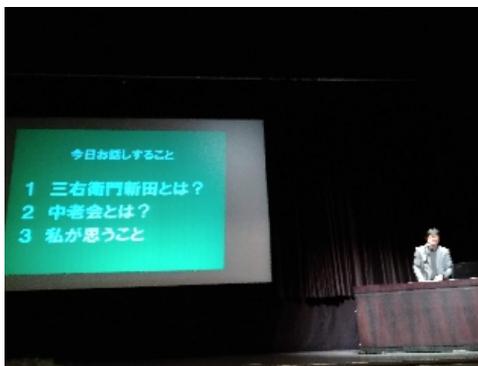


令和2年1月11日、高校生の若者から80代の高齢者まで150人余りが一堂に会し、まちづくりに関する意見交換や提案をしあう市民集会「大ワールドカフェ」が、焼津文化会館小ホールを会場に行われました。

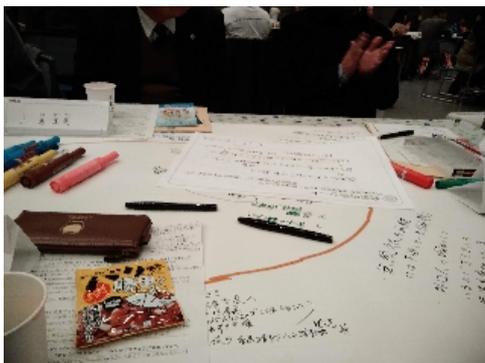
これは焼津市自治基本条例の規定に基づいて開催されるもので、今年で6回目。人口減少や少子高齢化の進行・社会保障費の増大など、社会が抱える問題に対し、オール焼津で課題解決をして行くという方針のもと、市民・議会・行政が力を合わせて取り組むための意見交換と提案の場です。

「カフェ」と銘打たれた通り、会場の中央テーブルには各種飲料やお菓子、地元名産のおつまみや練製品などがたくさん並び、それらを自由にとりながら堅苦しくならず、想いを出し合おうという雰囲気を作られ、開始前から和やかな笑顔が見られます。

焼津市では概ね50歳以上を「新元気世代」としてその支援に取り組み、今回のテーマも、“輝け 新元気世代！～みんなで支え合うまちづくり～”とされています。「新元気世代」が活躍できる社会をどのように作っていくか、またいろいろな世代が支え合い、まちづくりに参加するための心構えを一人ひとりがどの様に持つか、を前向きに話し合おうというものです。



はじめに、焼津市を拠点にする3人制バスケットボールのプロチーム「焼津GRユナイテッド」の代表の方や市内中央部に位置する「三右衛門新田中老会」の会長を6年間務めた方などから、焼津への貢献のあり方、他県出身者から見た魅力、地域との関わり方への考えなど、まちづくりに参加するためのヒントになりそうなお話を頂いたあと、6人前後で構成された24のテーブルで、自己紹介と自分や周りの活動やその良さなどを出し合いました。



各テーブルには市職員や市会議員がひとり以上入っています。私の座ったテーブルでは、市に対する苦言がいきなり出たりもしましたが、“年寄りがどうするかを考えるより、子供たちに対して何をしてやるかを考えることでそれが自分たちの喜びにもなり、してあげているつもりが、結局してもらっていると気づかされることになる”と新元気世代のボランティア活動への提案が熱く語られました。一人ひとりの発言をテーブルに貼られた紙に書き出し、休憩をはさんでメンバー交代。



後半は元のテーブルに残った人が前半の要点を報告し、新しいメンバーで、これからの提案や自分たちのできそうな事などを出し合いました。最後はこの自治基本条例策定から関わって頂いている松下先生進行により、各テーブルから出た意見をギュギュッとまとめて発表。これにはほとんどのテーブルから一番若い高校生などが立ったのが印象的でした。



ボランティアを募るなら“楽しさ”を入りに、まずは緩く大らかな構えで。特に若い世代へは紙で伝えても見てもらえないのでSNSを活用する。つながりを作るためには挨拶から。上から下へ提案するのではなく若い世代の提案で動く。スキルの物々交換をするのが良い。などテーブルごとの貴重な意見が聴かれました。

松下先生からは、「外から見ていて、こんな会を開いてしまう焼津のおおらかさ、大雑把さは魅力！何事も参加してみる事が大事で、参加する人は楽しそうに。それが周りに伝染していく」というまとめの言葉をいただき、3時間の会が終了しました。

世代に関係なく、それぞれの今後の活動や行動に良いヒントやきっかけがあったのではないのでしょうか。“焼津だからこそできそうなこと”がきつとあるように思えた、多世代交流の会でした。

志太榛北地区担当特派員 増田昌江